

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 園庭開放	4	5	6 休園
7 	8 始業式 11:30 降園 30年度バス便	9 入園式	10 園庭開放	11	12  お給食開始 13:30 降園	13 休園
14  	15	16 お花の慰問 (月組正装)	17 園庭開放 劇団カッパ座 来園	18 お弁当の日	19 平常保育 14:30 降園	20 自由登園
21 	22	23 お誕生日会 4月生まれのお友達正装	24 園庭開放	25	26	27 休園
28 	29 昭和の日 寝太郎祭り (月組参加)	30 退位の日				

園長	月の1組	月の2組	星の1組	星の2組	花の1組	花の2組	花組補助	花組補助	大型バス	小型バス	栄養士	調理	調理	事務

職員紹介

・ティッシュ(二箱雑巾)一枚のご協力をお願いします。雑巾は幼稚園で使用します。記名の必要はありません。

5月の予定

- 十日(金)保育参観・総会
- 十五日(水)びんぴんぱんぱん
- 二十一日(火)御降誕会
- 二十二日(水)お誕生日会
- 二十三日(木)春の遠足
- 三十日(木)歯科検診



4月の おたんじょうび

おたんじょうび おめでとう

4月 えんだより

しんじゅようちえん 73-1523



今月のことば

まっさらな  
朝のどまんなか  
生きていた  
いや  
生かされていた

〔東井 義雄『東井義雄詩集』  
「目がさめてみたら」より〕

今日の朝、目が覚めた時、どんな気持ちでしたか？さわやかな気分が目覚めましたか、それとも、眠いなあという気持ちで起きましたか？

お坊さんであり小学校の先生をされていた東井義雄さんが、「目がさめてみたら」という詩を書かれています。その詩は、「目がさめてみたら 生きていた 死なずに 生きていた」という言葉から始まります。生きているのが当たり前だと思っている私たちは、おかしな詩だと感じるかもしれませんが、東井義雄さんは、目が覚めた時、「生きていた！」と感動したのです。

続いて、「生きるための 一切の努力をなげすてて 眠りこけていたわたしであったのに 目がさめてみたら 生きていた」と続きます。「寝ている間、心臓を動かすのを忘れないようにしよう」とか、「呼吸をするのを忘れないようにしよう」などと思ってしまう人はいないでしょう。生きるための努力を何もせず寝たのに、目が覚めてみたら、生きていたのです。

そして、「却初以来 一度もなかった まっさらな朝のどまんなか」に「生きていた」と続き、最後は、「いや 生かされていた」という言葉で締めくくられます。

仏さまは私たちに、「生きているのは当たり前ではない。多くのものに生かされているのだ」ということを教えてくださいます。明日の朝、目が覚めた時、この詩を思い出してみてください。

(却とは、インドの時間の単位で、極めて長い時間のこと)

合掌

龍谷大学非常勤講師 小池秀章